



TITLE:

支那時局の重大と日本の好意政策の限界

AUTHOR(S):

矢野, 仁一

CITATION:

矢野, 仁一. 支那時局の重大と日本の好意政策の限界. 経済論叢 1927, 24(4): 677-694

ISSUE DATE:

1927-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128527>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號四第

卷四十二第

行發日一月四年二和昭

論叢

古代の港……………教授 文學博士 三浦 周行

俱樂部稅論……………教授 法學博士 神戸 正雄

ミルの經濟學概念……………講師 文學博士 米田庄太郎

歴史學派の先驅者としてのリチャード・ジョーンズ……………東北帝國大學教授 經濟學士 堀 經夫

時論

日本の對支好意政策の境界……………教授 文學博士 矢野 仁一

海軍制限に關する米國の提議……………教授 法學博士 末廣 重雄

說苑

ブルゲン氏の諸社會主義評論……………教授 法學博士 田島 錦治

産業としての林業の本質……………教授 經濟學士 平田 憲夫

バンタレオニの經濟學基礎概念……………經濟學士 松岡 孝兒

雜錄

印度の雨……………教授 法學博士 財部 靜治

時 論

支那時局の重大と日本の好意政策の限界

矢 野 仁 一

一

支那に於ける北方軍閥と南方國民黨の爭執は殆んど民國始まつて以來のことで、表面別に珍らしいことでもない様であるが、然し國民黨が今日の如く、其の所謂黨軍を有し、其自身の組織と勢力とに依つて、直接に北方と對峙し爭衡する様な形勢を示すに至つたことは、今度が始めてあつて、其の内容に就いて之を觀れば、實に非常の變と言はなければならぬ。民國創始以來支那時局は今日の如く重大性を帯びるに至つたことはないと言つてよい。

これまでは國民黨は非常に弱かつた爲めでもあらうが、其の常に主唱し宣言せる主義理想の上から到底妥協交譲の餘地がない様に考へらるゝ軍閥と妥協交譲し、我々局外者をして彼等ほど程まで其の主義や理想に忠實であり眞面目であるかを疑はしめたことは幾度であるか分らない。

國民黨が孫文の三民主義、軍閥打破を以て主義とし理想としたことは前からのことで、今に始まつたことでない。然るに孫文自から民國の初めに於て專制主義の權化、軍閥の巨頭とも言ふべき清朝極惡の奸臣たる彼袁世凱に對して、閣下雄材大略、支那の時局を收拾し、混亂を統一することは、閣下を措いて他に人なしなど、言つて、民國の依つて立つべき主義理想を裏切るのみならず、世界正義の爲めにも悲しむべき言辭を爲して、民國の印璽を讓渡したのである。孫文は其の主義理想の爲めに、自から清朝の政權に依つて統一せられたる平和の時局を破壊し、混亂を招致したのでないか。主義理想の爲めに平和の時局が破壊され、混亂が招致されたからと言つて、主義理想を賣り或は棄て、時局を收拾し、混亂を統一すべき理由はないではないか。然るに孫文は敢て之を爲したのである。孫文一たび主義理想を賣つて妥協の俑を爲してより、國民黨の軍閥と妥協することは珍らしくなくなり、國民黨と軍閥との爭執對峙は支那の時局に於て殆んど重要な價值がない様に考へらるゝことになつた。

今度も新聞紙に依つて傳へらるゝ所に據れば、北方軍閥に於て妥協交讓の意があることは兎も角として、南方國民黨に於ても、盛んに妥協交讓の裏面運動を爲しつゝある様である。さうして國民黨の左傾派たる共產黨の牽制若しくは反對がなければ、それが必ずしも絶望でないが如くに傳へらるゝことは、實に國民黨の爲めに、其の主義理想の爲めに、又支那の時局の永久の安定の

爲めに深く悲しまざるを得ない。私は國民黨の將來共產黨に依つて支配さるゝことを望まないものであるが、共產黨の牽制若しくは反對に依るに非る外、國民黨の北方軍閥との妥協苟合を絶望ならしむることが出来ない様な有様を見て實に悲しまざるを得ない。妥協では何時になつても同じことを繰返へすのみで、到底支那の時局を安定せしむることの出来ないことは明かである。一時の安定は或は得られるであらうが、永久の安定は到底望まれないことは、これまでの幾度びの苦い經驗に依つても、又論理上から考へても明かである。國民黨の孫文の主義理想に忠なるべき右傾派の人士は何故此の明瞭なることを理解せぬであらうか。或は左傾派たる共產黨の壓迫を免るゝ爲め外に爲すべき策がない譯であらうか。私は國民黨の共產黨に依つて支配せらるゝに至らざることを望んで止まざると同時に、國民黨が自から共產黨の反對若しくは牽制に依らずして、北方軍閥と其の主義理想を容認せしむる名に依つて實は之を賣ると同様な妥協などを試むることなく、一意忠實に其の主義理想とする所に向つて邁往せんことを望んで止まない。

二

南方の國民黨軍が今度の様な勢力を示すに至つたことに就いては、國民黨の標榜せる主義が深く支那の民衆にアツピールする所があつたからであると云ふ説がある。孫文の三民主義に依る政綱が支那の多數民衆に依つて共鳴された爲めであると云ふ説である。幣原外務大臣は議會に於け

る一月十八日の演説に於て、廣東軍政治上及び社會上の變革を目的とする一定の主義を高く其の旗幟に掲げて、之が爲めに支那に於ける内亂の性質に一の變化を來すに至つたと述べて居るが、政治上社會上の一定の主義とは、即ち此の三民主義を指すものであらう。

然し孫文の三民主義に依る政綱は今に始まつたものではない。今度になつてそれが始めて民衆に依つて共鳴されたと云ふことは、これまでは民衆に分からなかつた三民主義の理論乃至利益が、國民黨十數年の宣傳乃至教育に依つて始めて分かる様になつた爲めであるとしても考へなければならぬことである。然しさう云ふことはどうであらうか。三民主義とは言ふまでもなく民族主義、民權主義、民生主義である。第一の民族主義は支那民族の自由獨立を要求する點（中國民族自求解放）から、異民族の支配を受けないと云ふナショナリズムの運動と考へられ、滿洲種族の特權を基礎とせる清朝の政權を排斥する爲めには有力な主義であつたであらうが、今日に於てそれがどれ程支那の民衆にアツピールするものであらうか。それが各民族の平等を要求する點（中國境内各民族一律平等、世界上各民族一律平等）から、各國帝國主義政策の打破、不平等條約撤廢の國際的解放運動と關聯するものであるが、それは必ずしも國民黨の民族主義に限つたものでなく、支那南北に通ずる運動である。國民黨の民族主義だけが特に支那の民衆に理解され共鳴されたと云ふ理由はない様に考へられる。

然らば第二の民權主義はどうであるかと云ふに、これは政治上最後の權力即ち主權（選舉權、罷官權、創制權、複決權）を人民に附與せんとする共和民主の主義である。然し支那の民衆に政治上の主權を要求する考へがあつたならば、どうして軍閥が今日の如き勢力を得、又今日まで其の勢力を維持することが出来たであらうか。共和民主の國家として人民に最後の權力を附與すると云ふことは是非之を爲さなければならぬ筈である。又人民に之を要求する考へがあつて、共和民主の政治は始めて可能であると考へられる。然し支那の人民は今日未だ國家最後の權力を自分達の手に掌握しなければならぬと云ふ考へを持つに至らない。それだから軍閥は今日猶ほ其の勢力を持續して居ることも出来る譯である。それ故人民に國家最後の權力を持たしむると云ふこと、持たなければならぬと云ふ考へを抱かしむることは、國民黨として今後の教育、訓練、養成の重要な問題であつて、共和民主の國家たる民國の完成の爲めに、是非さう云ふことにしなければならぬ譯であるが、現在に於ては未ださう云ふことになつて居ない。支那の人民に未だ政治上最後の權力たる主權を要望する考へが起つて居ない。さうすれば國民黨の民權主義が支那の民衆にアツピールして國民黨軍の今度の成功となつたと云ふこともどうかと考へられるのである。

それならば第三の民生主義はどうであるかと云ふに、これは共產主義に似て居る様であるが、實は大に似ない。ボロディンは漢口に於て露西亞は支那に對して三民主義の行はるゝこと以外に

求むる所はない、三民主義は共產主義に似て居るから、三民主義が行はれさへすれば、露西亞は満足すると言つたと云ふことであるが、露西亞と似た様な國が隣國に起る譯であるから、露西亞はそれを見て喜ぶと云ふ意味に過ぎない様である。然し恐らくボロデインも孫文の三民主義の共產主義と如何に似て居ないものであるかと云ふことを知つて居るであらうと思はれる。然しボロデインとして露西亞は三民主義の一部分或は外面共產主義に似て居る様な觀あるに依り、之を利用して支那の赤化を圖り、共產主義を實行する手段とするのであると言ふことは出来ない。そんなことを言つては、非常な反對が支那の内外に起り、共產黨の勢力を一旦にして失墜するに至ることは明かであるから、ボロデインはそんなことを言つて、何故に露西亞は國民黨を援助して居るかと云ふ支那人民の胸底深く抱ける疑問を巧みに他にそらさんとするものでないか。民生主義は國家を前提とし貧富の不平均、個人的資本の集中を防遏せんとするもので、財産の私有を認め、只だ之に制限を附せんとする主義である。其の爲めに地權の平均とか、資本の節制とか云ふことを主張するのである。私はこれは有産階級にも不利益であり、無産階級にも共產主義程アツピールするものではないと考へるのである。

かう云ふ様に考へると、國民黨の國民主義が深く支那の民衆にアツピールして、國民黨軍の今日の如き勢力となつたものとは考へられない。又それが漸く支那の民衆に理解されて、其の結果

これまでアツビールしなかつたものが、今度始めてアツビールする様になつたとも考へられな
い。

三

然らばどう云ふ譯で南方の國民黨軍が今日の如く非常な勢力を示すことを得るに至つたか。こ
れに就いては第一に國民黨軍の實際に強いと云ふことも考へられる。武昌の攻奪戰に於ける彼等
の死を見る歸するが如き勇敢なる奮戦振は、支那民國以來の戰爭に於て曾て比を見ざる所である
と言はれて居る。これは彼等の主義を爭ふ爲めの戰爭で、これまでの軍閥間の掠奪主義の戰爭と
全然異つて居る爲めであると云ふ様に説明することも出來ぬことはないが、然しこれ程の勇敢な
らば、國民黨程の主義もない長髮賊の武昌、南京の攻奪戰、馮官屯、九江、安慶、常州、蘇州、
南京等の防禦戰に於て見はした勇敢なる態度と餘り變りはない。長髮賊がまだ廣西の山中に在り
し時、其の狀況を報告した官軍側の上奏に、廣西の賊匪では長髮賊は最も頑狡であり、死黨は累
千盈滿にして團結甚だ堅く、謀を用ゐ間を設けても解散せしむることが出來ず、幾度び擄斬芟
の餘を経ても決して降服しない、彼等は譬として死を畏れない、實に兇惡大慙であると言つてあ
る。長髮賊が武昌より舳艫相含んで揚子江を千餘艘の舟で航下した時の勢ひは、潰隄の河、燎原
の火の如く、殆んど何ものも防ぐことが出來ない様な勢ひがあつたのである。ウキリアムスは彼

の有名なる著書、中國總論(Middle Kingdom)の中に、長髮賊の革命主義が支那人民の滿洲政府に對する民族的反感にアツピールしたものと考へなければ、彼等がかう云ふ非常な勢力を示すに至つた事實を説明することが出来ない様に述べて居るが、然し長髮賊がかう云ふ勢力を示すに至つたのは、決してさう云ふ譯ではない。長髮賊には決して支那の人民にアツピールする様な主義がなかつたのである。それだから彼等は南京を取つて、此處に落着くことになる、最早やそれ以上には勢力を伸すことが出来なくなつたのである。政治上社會上一定の主義を高く其の旗幟に掲げて居る國民黨軍を長髮賊に比することは、恐らく甚だしき不倫であらう。長髮賊は決して主義の集團ではない。然しさう云ふ詰らない長髮賊ですら、一時あれ程の大勢力を見はし、あれ程の勇敢なる奮戦を爲したのである。國民黨軍が露西亞の援助に依つて編制したる比較的訓練ある軍隊として、これだけの勢力を見はすに至つたことは別に不思議はなく、主義を爭ふ爲めに此の如く勇敢であり、非常な勢力を示すに至つたと考へなければならぬこともない様に考へられる。

四

第二に考へらるゝことは露西亞の援助と云ふことである。廣東黃埔の中央軍事政治學校は露西亞の寄附に係る二十萬元の金と數千挺の小銃、數十挺の機關銃、數門の重輕砲を基礎として設立されたと云ふことであるが、此處で速成的に養成された士官は非常の多數に上る様であるが、こ

れが政治的軍事的に訓練された今日の國民黨軍の基礎を爲すものである。これまでに國民黨は自分の黨軍と云ふ様なものがなく、雲南軍だとか、廣西軍だとか、湖南軍だとか云ふ様な外省軍即ち客軍に依つて、纔かに其の地位を維持して居たのであるが、露西亞の援助に依つて始めて自分の黨軍を持つことが出来る様になつた。黨軍は露西亞の赤軍の編制に倣つて編制されて居る様である。國民黨は今日果して露西亞からどれ程現金若しくは兵器彈藥等の補助を受けて居るか云ふことは分からぬが、露西亞から百數十人の顧問とか教官とか云ふものが廣東始め武昌、漢口等に來て居つて外交、財政、軍事、政治各部局に奉職して居ることは天下公知の事實である。顧問とか教官とか言つて居る様であるが、彼等は此等各部局の樞機に參與し、實際に於ては殆んど之を指導しつゝある様である。彼等は毎週、處に集合して前週中の經過成績を講評し、更に次週中に爲すべき作業に就いて討議を行ひ、極めて計畫的秩序的な服務を爲しつゝあると言はれて居る。さうして此等多數の露西亞人は皆露西亞政府から給與支辨を受けつゝあると云ふことである。

露西亞は嘗て清朝時代に於て北京に官商隊を派遣した。十七世紀の後半から十八世紀にかけて何十回と云ふ官商隊を派遣した。又外交上の使節や商務官を派遣し、希臘敎の僧侶即ちアルヒマンドリトだとか、滿洲語や支那語を研究する爲めの官學生だとかを送つた。當時の支那政府は露西亞が自分の利益の爲めに送つた此等の露西亞の商人、使節、官吏、僧侶、學生などの旅費

や、北京滞在中の食糧までも支給したのである。尤も官商隊に就いては支那政府に費用を支辨せしめて、露西亞自から其の利益の爲めに貿易を行ふと云ふことは、餘りに勿體なさ過ぎるので、如何にすう／＼しい露西亞政府でも其の費用だけは辭退したが、使節、官吏、僧侶、學生などは後までも支那の支辨を受けて居たのである。露西亞は支那の費用で一生懸命支那語滿洲語を學び、又支那の事情を研究して居たのである。露西亞は今日清朝時代の御禮奉公を國民政府にいたして居る様なものである。

露西亞は果して自分から費用を出して支那の爲かに犬馬の勞を効して居る譯であらうか。恐らく露西亞は自分を忘れて支那の爲めに報酬を求めずに盡して居る譯ではあるまい。露西亞は共產主義に似て非なる三民主義が隣國に於て行はるゝを見て喜ぶ爲めに百數十人の露西亞人を派遣して居るものではないことは明かである。支那の爲めに盡すが如くして、實に自分の爲めに盡して居るものに過ぎない。支那が三民主義五權憲法（立法權、司法權、行政權、監察權、考試權）に依つて統一せられ、鞏固なる中央政府が確立され、支那の人民が國民として利益幸福を増進するに至ることを心から願つて助けて居る譯ではない。恐らく露西亞の目的とする世界革命を達成する手段、或は資本主義國家に對する戰略として之を助けて居るものであらう。國民黨もそれは十分知つて居ることと思はれる。

第三に考へらるゝことは、露西亞の勞働者乃至農民に對する共產主義の宣傳である。ポロディンは漢口に於て農民が貧ならば工業も貧弱で、工業が貧弱ならば工人も貧で、工人が貧ならば全國民が貧である、支那の農民は三億人ある、三億人の經濟事情を改善することは全國民の經濟事情を改善することであると云ふ様な意味の演説を爲したと云ふことである。露西亞或は露西亞に依つて指導せらるゝ共產黨は賃銀値上げ、待遇改善に依つて勞働者を煽動し、小作料の輕減、土地問題の解決を以て農民を煽動しつゝある様である。江西に於て國民黨軍の形勢を有利に導き、優勢なる孫傳芳の軍を驅逐することに成功せしめたのは、實に此等の農民勞働者の此の煽動を受けて簞食壺漿して黨軍を迎へたに依ると言はれて居る。私は國民黨だけで、共產黨の積極的活動が此の上行はれない様になれば、國民黨軍がこれまで見はした勢力も、精々南京上海の占領位で御仕舞ひとなりはせぬか、丁度長髮賊の勢力が南京の占領を期として最早や其の上に非常な發展を爲すことが出来ぬ様になつた如く、其の以上の活躍は最早や出来ぬ様になりはせぬかと考へるのである。然し共產黨の活動が引續き行はるゝ以上、どうして安徽、河南等揚子江北方各省の農民勞働者が、其の煽動を受けること江西の如くでないかと考へることが出来るであらうか。私は國民黨が露國の援助を斷り、共產黨の聯合を絶つことが出来れば、國民黨軍は最早や此の上非常な活躍を爲す望みなく、それが今後益々活躍を爲す望みがある様であれば、共產黨の勢力は露西亞

の勢力と共に益々國民黨に加はり、支那赤化の色彩は益々濃厚になり、支那は自から之を脱せんとして遂に脱すること能はざる様になりはせぬかを恐るゝのである。支那の帝政は一夫も其の所得ざるものがあれば、己れ之を擠して溝壑に陥れたるが如き責任を感ずるを理想とせる政治であつたが、それは到底理想であつて、實際に於てはボロディンが三億を算する様に言つて居る農民や勞働者の利益幸福を顧みざる政治であつた。露西亞は此の如き農民勞働者、帝政時代に於て毫も其の利益幸福が顧みられなかつた無産階級にアツピールし、其の利益幸福を以て彼等を誘ひ、其の共產主義的戰爭に對する有力なる味方となさんとしつゝある様である。露西亞の共產主義は果して何處までも支那の無産階級の實際の利益幸福或は彼等の自から描いて居る様な利益幸福と永久に一致するものであらうかと云ふことは之を疑問としても、兎も角一時は彼等を味方に誘引することが出来ることは明かである。

今日露西亞或は共產黨は國民黨を利用し、又國民黨は露西亞或は共產黨を利用して居る様に考へ、互ひに利用しあつて居る積りであらうが、然し國民黨は到底露西亞の敵ではない。彼等は北方軍閥と妥協苟合し、主義を賣り或は棄てることを辭しない歴史を有して居る。個人的私利私益の爲めに公利公益を犠牲として耻ぢない支那人固有の痛弊を脱却することは出来ない。彼等は主義に殉ずる熱心はない。露西亞或は共產黨の積極的な活動に對して之を防禦し乃至之を攻撃する

勇敢な精神はない。露西亞或は共產黨は私利私益を顧みず、共同の利益に向つて共同の戦線を布くも、國民黨には私利私益を棄て、共同の利益を擁護せんとする公共的精神はない。私は國民黨は露西亞を利用する積りでも、終に之に利用せらるゝに至りはせぬかを恐るゝものである。

五

私は今後國民黨の勢力がどれ程の發展を見るに至るであらうかと云ふことは、其の露西亞を背景とする共產黨の關係如何に依りて決せらるべき問題でないかと考へる。私は若し國民黨軍が終に支那を統一し、支那を支配する様な勢力を見はすことが出来るものとすれば、それは同時に露西亞の勢力、其の共產主義的勢力が支那を支配するに至つた時ではないかと恐れる。私は日本として國民黨軍の勢力の發展に對して執るべき好意的不干渉政策には必ず其の限界がなければならぬと考へる。

國民黨は露西亞が支那との條約に違反して、支那に於て内政に干渉し、共產主義の宣傳を大びらに行ふことを容認して居る。國民黨軍の勢力の發展はどれ程露西亞の干渉、其の共產主義的宣傳の結果に關係するものであるか分からぬ。之に對して無限に好意的不干渉政策を執ることは、露西亞の勢力、其の共產主義的勢力の國民黨を支配し、それと共に支那を支配するに至る様な形勢を援助することゝなる危険がある。さうして之を援助したる結果日本は合法的に合理的に其の

支那に於ける利益、滿蒙に於ける特殊の地位を維持することが出來ず、之を維持せんとすれば、自から非常な不徳義な地位に立ち、不合法な又不合理的行動を爲さなければならぬ矛盾を避けることは出來なくなる虞れがある。日本としては國民黨軍の勢力の發展に對して露西亞の勢力、共產黨の分子の勢力の發展と認めらるゝものと、純國民黨の健全なる分子の勢力の發展と認めらるゝものを區別し、後者に對して好意的政策を執つても、前者に對しては好意的政策を執ることは出來ぬ筈である。日本のかう云ふ政策の限界は或は國民黨軍に於ける國民黨の分子と共產黨の分子の分解作用を助けることゝなるかも知れぬ。さうして其の結果國民黨軍の勢力の此の上に發展し、遂に支那を統一し支配するに至る様な形勢を阻止することになるかも知れぬ。然し露西亞の勢力、或は其の共產主義的勢力に依つて支配せられなければ國民黨軍の發展が望まれず、支那を統一し支配することが出來ないものとすれば、それは國民黨軍にそれだけの力がなく、支那の人民に純國民黨の健全分子を歓迎し、其の三民主義に共鳴する熱誠と準備とがないものとしてあきらむる外なく、露西亞の勢力、其の共產主義的勢力の指導鼓吹に依つて、國民黨軍が始めて揚子江以北の各省に發展することが出來、進んで終に支那を統一し支配することが出來る様なことになるとしても、それは日本として喜ぶべきことでないのみならず、又支那としても喜ぶべきことでない。

國民黨軍の勢力の發展に對して日本の執るべき好意的政策の限界あるべきものとしても、何處までが露西亞の勢力、其の共產主義的勢力の指導鼓吹に依り、何處からはさうでないかと云ふことの見分けをつけることは容易でない。私はこれは彼等の不平等條約撤廢、外國租界租借地等の回收、關稅自主權の要求、治外法權の撤廢等の如き外國に對する要求の正當不正當、其の目的の純不純、其の手段方法の合法的不合法的に依つて判斷する外がないと考へる。

支那の不平等條約撤廢の要求は前にも述べた如く必ずしも國民黨に限つたことではないが、國民黨軍が無理無法に漢口、九江の英租界を占領し、英吉利は之を條約の蹂躪として其の無理無法を詰責せんとせず、却つて支那國民の熱烈なる要求を強力を以て拒絶することは宜しくないと言つて、之を條件的に容認せんとする態度を取り、世界の輿論も亦支那國民の熱烈なる要求を認めて、條約蹂躪の不法を認めない様な形勢となつて、非常に重大な問題となつたのである。どうも外國は其の頃から支那に於ける不平等條約は到底撤廢しなければならぬ、好い機會を見付けて成るべく早く撤廢する方が支那の時局の變化に依つて外國の受くる損害を少くする所以であると考へる様になつた。かう云ふことは國民黨の漢口、九江の英租界占領に依つて起つた變化である。孫傳芳は二月十六日に上海に於て外國人保護の布告を發し、租界の回收は國民の歡迎する所であるが、事態重大で強制的に施行し、又は輕々に従事すべきでない、必ず正式の手續を経なければ

ならぬ、漢口の英租界占領の問題の如き徒らに紛糾を起し外侮を招いだに過ぎぬと言つたと云ふことは當時の新聞に見えて居るが、それは孫傳芳の當時の位置として、外國の感情を害するを得策として發した布告で、爲めにする所あつてのことに過ぎない。漢口問題の爲めに支那は外侮を受けず、英吉利は却つて支那から侮を受ける様な有様となつた。さう云ふ譯で不平等條約撤廢、租界回收の如き要求は支那の南北を通じ人民全體の要求であるとしても、それが重大な問題となつたのは北方軍閥の要求から起らずして南方國民黨の要求實現の過激なる手段方法より起つたのである。

一體不平等條約撤廢の要求はどうして起つたか。國民黨の三民主義の當然の歸結として自發的に國民黨の間に起つたものであるかと云ふに、どうもさうではない様である。一九二〇年即ち大正九年まだ露西亞と支那との國交が開けぬ時から、露西亞の極東政府代表者たりしユーリンが北京に來り支那に對して國交恢復の提議を爲した時、彼は露西亞を代表して有名な特權拋棄の宣言を爲した。これまでの露西亞と支那との條約は偏務的な不平等條約であつた、機會均等、權利平等の主義に反する帝國主義的色彩の濃厚な不法な條約であつた、露西亞は今一切之を廢棄して支那の人民及び政府の主權及び名譽を毀損する様な一切の條約を無條件に撤廢すると云ふ宣言であつた。これはどれ程當時支那の民心にアツピールしたか分らない。それから一九二四年五月の

露支協定に依り、露西亞は正式に支那に對し關稅自主權の恢復、治外法權の撤廢、租界に於ける諸特權の拋棄、義和拳事件賠償金の拋棄等を承認し、支那に於て有する一切の特權を拋棄したのである。此の年モスクワに於て帝國主義反對の大會が開かれ、引續き北京に於て反帝國主義聯盟の組織を見るに至り、不平等條約撤廢の要求は漸く盛んとなつた。どうもこれは國民黨の三民主義から支那人は自發的に演繹的に考へ出したものでなく、露西亞の入智慧に依つて指導され煽動されたものでないかと考へらるゝのである。さうしてそれが三民主義の民族主義の主張にも合致するのであるから、國民黨は得たりかしこしと之を自分の藥籠中に收め、自分の主義として振舞はすことになつたものではないか。

さうして今日ではこれこそは支那の國民運動、國民革命の根本の目的であると言ふ様になつたのである。さうして支那の混亂、不秩序、不統一の原因、支那の積弱衰頹の原因は、皆外國が此の帝國主義的不平等條約を以て支那を束縛し搾取る結果である、此の不平等條約にして撤廢されるれば、支那の内亂は自から收拾し、支那の政體は自から統一し、秩序は恢復し、支那人民の利益幸福は期せずして増進されると云ふ様に考へることになつた。それはさうでないのか、却つて反對ではないか、支那は自から内亂を收拾し、政體を統一し、秩序を恢復し、人民の生命財産の安全を保障することが出来る様になれば、其の結果として不平等條約は撤廢さるゝことになるべきではないか、さうしてそれでこそ始めて不平等條約が撤廢されただけの利益は實際に望

まれる譯でないか、今日の様な支那の状態に於て不平等條約が撤廢されたからと言つて、どうして其の結果として内亂の收拾、政體の統一、秩序の恢復と云ふことになるであらうか、却つてそれを要求する國民の刺戟を失ふことになり、支那の結局の不利益になりはせぬかなど、議論して見ても、到底支那人には耳に入らない様になつたのである。今日は外國も最早や不平等條約撤廢の前に先づ内政の整理などは言つて居られず、言つても無益である様に考へる様になつたのである。

日本としても支那の不平等條約撤廢の要求は、其の正當の範圍を超越して滿洲に於ける日本の特殊地位の即時拋棄を要求する様なことにならざる限り之を承認しなければならぬことは明かである。さうしてそれが露西亞の支那に於ける勢力、又之を背景とする共產黨の勢力を援助する様な支那人民の實際の利益幸福に背馳する不純な目的に出です、又それを達成する手段は飽くまで合法的な秩序的なもので、漢口、九江の英租界不法奪取の如き、條約の手續に依らず或は條約廢棄の方法に依らんとする様な露西亞式共產主義的無法手段にあらざる限り、之に對して好意的援助を與へることを、私は必ずしも不可とは考へない。然し其の要求は正當の範圍を超越し、其の目的は不純であり、其の手段は不合法であるならば、日本は敢然として反對しなければならぬ。之は支那に於て露西亞の勢力、及び其の共產主義的勢力の横溢を阻止し、眞の國民的要求に基礎を有する正當有力なる國家の建設を援助する限界線である。